平新報

發行日　每月三回　五ノ日發行
編輯兼發行印刷人　山野邊庄吉
發行所　福島縣平町南町七五　平新報社
廣告料　五號十二字詰一行一回五十錢　場所指定倍增
一部　定價金十錢
送料　五厘

文明は鄕土より！

現實中央の俗見記（二）

勿來生

四、出版資本主義の惡化

資本主義の文化的高調時代は既に過去のものとなつて現代の資本主義は極度に墮落し低下し惡導して全く國家國民の發展上に一大阻害と陰影を與へてをるのは事實である。

卑近なる一例を示せば帝都否大阪、京都の出版界に於て見よ。全集其の他の刊行物出現以來、資本主義の能力は殆んど此れのみに傾集して、日本文明の中心左右は、全く以て所謂出版事業に傾力してゐる。其れが反面には日本に必要な著書乃至國民へ必求すべき編述ものは出版界の線上に容れられず、出られずして彼等の經濟打算は唯だ俗惡、卑級な則ち國家國民をして瞎黒、左傾、反動的にガイドする刊行物を是れ向合して之を發行し、日本に送つてゐる。將さに是れ彼等出版事業的資本の惡使の影響が如何に憂ふるべきかを諸氏はよく知るであらう。

從つて全國地方には隱れたる學者貴重なる文獻乃至遺賢の多くあるにもかゝはらずに、劣德の圖書出版資本主義者に因つて、悉く滅沒しをり、今日の日本文明及び日本人の國家的意識を濫褻してをゑに對し諸氏は一大の考察と怨磋を起さざるにゐられやうか。

明治前否近世時代の本邦出版界は、孰れも其の著書の良質に據つて之を發行してをる。其の執筆者の態度に徵して之を上梓してをる。されば其等の著書は凡べて本邦の基典となり、指針となつて所謂日本文明のプロセッスを劃してをるに諸氏はよく知らねばならぬ。あゝ現實の帝國文化は、實に彼等惡性資本主義的出版界の爲に危機に佇つてゐる！のを奈何するぞ!!

彼等のかゝる行動と主義と政策がある爲に學者は益々低級し著作者は倍々頽道し、即ち國家の一大文明を導き論ふる此等の中間群によつて、勢ひ現實の日本的進展上の悲劇を演じつゝをるのである。ああ

五、政治省を獨立せよ

政治の立憲、代議員の神聖等は最早古い言葉であり或は御聖旨の然らしむる所なるが、憲政施かれて以來其の筈であるべき意義の悉くが相違と絶望の極みである。而して現代日本の政治の運用は全く政黨の一規約であり一綱領の感たらざるべからず。

是れでは本邦の政治は宛然彼等の政黨に羅從する機關であり、支配される行使に等しと云ふことが出來やう。故に多くの代議員は選擧人に對しては有名無實の偶像であり、地方を偽瞞する代辯業者であり、萬骨を枯らしめて出でたる中原の一將であると喝破してよい。

かゝる悲哀的狀態は何に起因して、即ち選擧人と被選擧人の差隔が生ずるものであらうか。何に原因して政治家と政黨の相歩み倚る必然の理由と亦其の不自然さが常に來してをるのであらうか、諸氏は斯の間の光景を徐ろに思ふ時如何に今日の政治と政治家とに、たよりなさと慷憤さとを油然抱かずにゐられない。

現代日本の政治及び政治的の矛盾と無誠意に就て則ち國民的生活條件の最高把持者たる代議士と政治的團體の改造は、容易に實行し得ると私は確信する。

乃ち政治省を獨設して政治大臣を置き代議士をして其の任期中本人の願に依り勅任官に登用して、現在歲費の二倍を與へ勿論在任中一切の從前公職を一時辭任せしめて、政務に實際參與させ、地方の長官は其の地方選出の代議士中より政治大臣に於て之を任官し眞の地方政治を帶務させること等である。

而して選擧期間は十日間とし、候補者の文書は發信一回に限ること、演說會は或る數ヶ町村を區域して是又一回に限ることとしたい。

そして政治家乃至代議員に對しては絶對に政黨を認めず、苟合的集會寄集を許さず、一度び國民の公選に因つて選擧されたる代議員（縣會議員も含む）は、唯官吏として之を採傭利用して、政治大臣直屬の下に一切を汎專制的に統卒することに依つて、現代日本政治の更生であり國家國民の併立した幸福を得らるゝものと、私は深く神以て必ずや來るものと信賴してゐる。

鄕土否全國地方の諸氏！

私の考案を否とするか。

（つゞく）

ふみ籠（一）

磐崎（尋常高等）小學校

磐崎尋常高等小學校校歌

作歌　兵庫縣赤穗中學校敎諭　吉田廣佑

作曲　福島縣磐城高等女學校敎諭　田中金三郎

◇

一、あゝ黒潮の潮鳴と
三函の山の清秀に
惠まれ立てる學舍に
我等學ばん人の道

二、垂穗の美田は我が家ぞ
石炭の寶倉は我が家ぞ
敎へのまゝに身を立てて
我等報いん國の恩

三、朝夕に新なる
世の足並に後れじと
心も赤き校旗もて
いざや進まん諸共に

◇

我輩は犬である

高二ノ二　中野行雄

我輩の名はチシといふのである、體も小さいが名も小さい樣だ。今日は日曜日でおまけに我輩の大きらいな十郎の奴も居ないから隣のエス君の家へ行つて又喧嘩でもして來ようと思つて大急ぎで晝飯をすました。エス君の奴は非常に自慢好だから今日は自慢の出來ぬ程苦るしめてやれと思つて居たので幾らか元氣がついて居た。エス君は我輩よりも二つも小さいが每日門に出て番をして居る。斯んな事などは我輩の感心して居る點だ、我輩が行くと何時もの通り番をして居たが我輩を見つけるとこそ／＼と逃げて行つてしまつた。これはしたりと少々追ひ驅けたがエス君の家なのでどうする事も出來ず滋々と家へ歸つて來た。すると十郎の奴が歸つて居たこれは叱られると思つてあたりをしのぶ樣にしたが見付つた。すると大きな聲でチンといはれたのでびつくりし、しまつたと裏口から逃げ出したすると女中さんが使用してゐた、熱いお湯に突當りこれはしたりと思つたが今更どうする事も出來ず、背中が赤くなつて非常に痛み四日ばかり床についてしまつた。すると隣りのエス君が來て每日我輩を笑つた。しかたが無いエス君の笑ふのも皆自分が惡いんだもの後悔は先に立たずといふ事を滋々と悟つた。

◇

霜の朝

高一ノ四　寒河江キエ

コケコッコーといつになく鷄の鳴き聲に目がさめたあたりを見ると皆はまだぐつすり寢入つて居る、ただ母が一人炊事場で仕事をして居る時計を見るとまだ三時十分である。又寢ようかと思つて枕についたがどうしても眠れない。そうだ今日こそは早く起きて母にお手傳ひをして上げようと思つて思ひきつて床をはなれつめたい着物に着かへた。表へ出ると此の頃にない寒さである、あたりは一面薄白くもやがかゝつたやうになつて居る。洗面器に水をくむと『カラ／＼』と變な音がしたなんだろうと思つて手を入れて見ると一錢銅貨位の厚さの氷が張つて居た『あゝもう氷が張つたんだわ』と思ひながらそのことを母に話すと『ゑびすこが來るんだもの』といつたいろ／＼お手傳等をしてゐると、やがて夜が明けてすが／＼しい朝になつた。あたりは霜で眞白だつた。

◇

私は鮒である

高一ノ三　熊田三枝

或日私が青々とした川のすみの從の葉の後に身をひそめてゐると、近くで誰か歩く足音がしたと思つてゐた瞬間、私のそばで『かぼり／＼』と音がしたので逃げやうと思つたが、もうおそい網の中に入つてゐた。どうしやうと云つた時大きな手がニュッと網の中に入つて私の體をつかんだ。私は『ビクリ』體を動かした『ポタリ』おや變な所に入れられた、其の時は既に水氣ないかごの中に入つてゐた食べられはしまいかどうしやうとじつとかごの中で考へた、人間が『ガラリ』と戶を開けて明るい所に入つたそして又も『ニュット』大きな手が私の體にさわつた私は夢中になつて跳ね廻つた、そうすると思ひもかけない美しい白い器の中に入れられて高い所に上げられたやうな氣がする、ひよつと見ると私の前にはニコ／＼と笑つた惠比壽樣が立つてゐらつしやる。私はよく考へて見た『あゝ今日は惠比壽講だそれで私は此へ上げられる爲に取られて來たのだ』と氣がつくと今までの心配は何處へともなく消えてしまつた。私は思ふ存分およいで喜んだ。座敷の方では先に私を取つて來た人始め五人位の人間が樂しさうに話しあつてゐる。私も嬉しい一人の子供が私を見て大きい鮒だなあぴん／＼してらあと云つて笑つた。人聲も止んであたりはしんとした、もう皆な寢たのだら惠比壽樣は相變らずニコ／＼して居らつしやる。私も靜かな美しい水の底にうづくまつて寢た。

◇

カラス

尋一　吉田榮子

カラスガカアカア
ナイテクル
ムカフノテラカラ
トンデクル
チヤウドヒコーキ
トブヤウダ
オマヘノオウチハ
ドコデスカ
トウサンカアサン
マツテヰル
ハヤクオウチニ
オカヘリヨ

關西旅行記　拾四

西山孝頼

東京見物

（承　前）

やがて神宮を參拜し代々木驛前にておひるにすそばを食す大分うまかつた。暫し休みてから省線電車により上野に着すそして上野公園を見物す。ランチに腰掛けて市街を見渡せば絶えまなく通る自動車電車の往來車馬の往來等家々の間からそびえる大建築物大工場の煙突は天にそびえたつてをるその壯觀さはとうてい筆舌につくし難し、市街を見てから上野動物園を見物す北海の熊は水にたはむれてゐたその他猿しゝライオン其他一切の動物はこゝにおさめられてある、又は可愛い小鳥はおりの中で囀へづつてをる。動物園の中はかなり廣かつた動物園を見てから旅館につく、時午後二時也私は三時の汽車で石岡へ行かねばならないので用意をす。やがて午後二時半旅館を出で十分位にて上野驛に着す。上野驛前の菓子店でお土産を買ふ私は午後二時四十分高架ホームへ着すこゝから原ノ町行の列車に乗る。

廿九　石岡町

列車は汽笛一聲上野驛を發す車内はすいてゐた列車が日暮里三河島と過ぎて行く頃車內は大分混雜した、列車は青々とした田や畠の中を進んで行く。列車は土浦に着す此頃黄昏の夕日は霞ケ浦湖上を赫くてらしてをる。そしていだこ行の汽船は川口に碇泊してゐた、湖上の風光はまつたくよき景色である。幾艘の釣船は夕日にてらされつゝ魚を釣つてゐたこゝぞ水郷の都である。

やがて列車は土浦を發すればまもなく石岡驛に着す。私は櫻井を訪れるべく下車した時午後五時也、色はカフェーにて夕食をなす。そしてこゝから電話をかりて櫻井さんの橋本君を呼ぶまもなく橋本君は自轉車にてきたる。二年間彼に逢はなかつたので懷かしかつたやがて二人で色はカフェーを出で石岡の燒跡を見る、夕日は燒跡をまつかにてらしてゐた彼に石岡大火の原因火元等について聞く、火元は二軒であるがどちらだか未だ判明しないと語つた。そして今二軒とも裁判の完決さる迄まつてゐるそうだやがて二人で仲町を通りぬ櫻井さんの旦那に逢つた。二年前お世話になつた旦那姿は變りはなかつた。滿面に喜悦をうかべて挨拶してくれたのは喜こばしかつた暫し櫻井さんで皆さんと色々な話をす今職工さんは三人である相變らず店は隆盛である。

名殘を惜しみて橋本君と一緒に再び町を見物す、此頃早闇となつて外燈がついてゐたなんとなく石岡の町は靜寂だ。二人で幸町守横所道と見て行くだいぶ新らしい家が出來てゐる。私が元ゐた石岡町とは變つてゐたそして大建築物などが出來てゐた、あの火事のあつた晩はお話にならない程悲慘を極めてゐたと彼は語つたやがてこゝを通りて大小路高町と通つて行く、こちらの方は幸ひ火災にあわなかつた警察署と驛前迄今度一直線に道路が完成されるそうだ、今其の工事中であつた完成したあかつきには縣下に誇る道路となるでせうやがて復興の石岡町を見物し午後八時驛に着す。橋本君もきてくれた午後八時五十分改札口を出づそして橋本君と別れぬ。懷かしい友と別れた時私の心は寂しかつた。やがて午後八時五十五分平驛行の汽車に乗車す

三十　歸　家

車內は二三人しか乗つてゐなかつた、列車は石岡を發し友部を過ぎて水戶に着す水戶驛にておすしとお茶を買ふのどがかわいてゐたのでうまかつた、やがて列車は五分間停車して水戶驛を發す、列車は闇の中を進んでまたゝくまに助川高萩とすぎて行く。此頃ねむけしたのでぐつすりねてしまつた、列車が湯本へ來た時私は目をさました。まもなく列車は平に着す。時十二時也改札口に來た時弟が迎ひに出てゐた。やがて弟と共に久し振りで我が家につきぬ。つかれてゐたのでぐつすりねてしまつた。明朝とはなりぬ私は八時頃起きたそして旅行中のお話をしたりお土産を見せたりして一旦白土屋さんへ行き一日の休養をもらつて家につくそして夕方再び白土屋さんに行つて働く身となつた。かくして關西旅行は皆樣のおかげで無事に終了したのでゐる。旅行期間昭和四年六月一日より十日間なり。…〔完〕…

優秀既製洋服

近代人の欲求は
安くて
良くて
直ぐ間に合ふて
型のくづれぬ
ハイクラス、レデーメード
（春服近日入荷）

あかや洋服店
平二・電話二〇三

液體空氣會社製
（酸素含有量百分中九九、五）
（東京工業試驗所證明）
吸入用酸素、酸素吸入器
体溫器　寒暖計
平　關內藥局　電話四〇番

X光線科
平南町
電話一二九番

味噌・醤油
平稅務署向通り
山野邊米店
電話（呼出）七三四

一、願書提出は二月十三日より三月三十日まで
生徒募集　藤田女學校
一。本科　五十名
二、裁縫專修科　百名
三、師範科　五十名
四、專攻科　二十名
文部大臣認可　福島縣平町田町　藤田女學校
◎湯本　江名　藤田女學校

生徒募集廣告
一、願書提出期限ハ本年三月三十一日マデトス
一、入學生ハ高等小學校卒業以上トス
一、入學生ハ本年四月一日ニ必ズ出校スベシ
一、本科　一百名
一、普通科第一學年　一百五十名
一、第二學年　若干名
右募集ス
磐城佑賢學舍

產婆看護婦生徒募集
修業年限產婆看護科ヲ通ジテ一ケ年
願書四月八日迄（可成至急）
（自炊の便あり）
平町一丁目
石城產科看護婦學校
電話三五七番

生徒募集　平陽女學校
募集人員
本科第一部　二ケ年卒業　五十名
本科第二部　三ケ年卒業　五十名
技藝高等科　二ケ年卒業　五十名
同　專攻科　一ケ年卒業　三十名
入學手續
右各科共入學ヲ許可ス希望者ハ入學願書ニ履歴書ヲ添ヘ三月末日迄ニ本校宛提出ノコト
◎四月四日午前十時入學式擧行
◎學則請求ノ方ハ郵券二錢封入ノコト
文部大臣認可　福島縣平町　平陽女學校
電話四四五番

政局は安定した……が
國民生活は安定するか
總選・逐鹿觀戰記
「眞立」

濱口内閣が小數黨にして其政策實施不可能との見地から議會解散し、國民の總意を質すべく總選を行つた結果は果然興黨絕對多數となつて此處に政局一先づ安定となつた理である……が國民の生活は果して安定足り得るかは疑問である。

× ×

興黨民政黨が勝つといふ事は選擧前に大體判つて居つた事で在野政友會の意氣消沈とに比して、民政黨は選擧前に於て既に貳百四十名の過半數を採るべく政友會では戰はずして二百名内外と豫算を立てゝかゝつた事闘ひ前の意氣に於てその開きがあつた。無產黨は天下を未だ取らぬに同士打ちをなして居つた、結果がかくなるはこれ又當然と申さねばならぬ。

× ×

兎に角國民何人も民政や政友といふよりも政局安定を欲して居り期せずして濱口内閣を援けた事になつたが何も民政黨の政策に共鳴した事でもあるまい。極論すれば逝ける田中義一が安達や濱口を生かした事になつたのである。民政黨がウマく宣傳した？國民すべて前内閣田中政友の罪惡賣勳疑獄事件議員買收事件に公憤して居つた。其處へ比較的人格者とせらるゝ濱口氏に加ひ選擧の神樣と稱せらる安達さんの妙なる策謀が圖に當つたのではあるまいか

× ×

帝國臣民は早や二大政黨の對立を認めて來た、即ち憲政の常道から正しく歩みつゝあるのである。普選の第二次選になつてそれがあり〳〵と見えて來た。觀よ中立議員の存在を許さず況んや政治道德を知らざる變節漢連の慘敗は留飲が下がつた樣な氣がする。

× ×

筆者は今回の選擧戰には都合上直接關係するを得ず座して文章や新聞紙上にて觀戰したのみで政談演說の一度も傍聽し得なかつた。否なする氣になれなかつたのであつて詳しい當地方の逐鹿戰は知り得ないが時の内閣の下の比佐氏家民政側の全勝、在野の木村佐藤政友側は慘敗と來て、木村側辛じて佐藤側より五百票を贏ち得たのみの結果を來して居る。

× ×

比佐派の優勢は初めから判り切つて居る事で同派の機先を制して居つた事は立看板のいち早く立て又は立候補の挨拶狀の一番早く配つた事の一事に視てその熱誠と眞劍さが判る。それに反して政友側は木村氏辯するであらふとか何とか佐藤氏の如きはマルで立ち遲れと來て居る。比佐氏此の點からいふと彼が一生代議士でとうすと言ふ如く常に地方選擧民と個々系を採るに熱心であつた。氏が常に年賀狀初め時候挨拶狀のもれなく配りつゝあつたに思ひを致せば、彼の熱心さが思ひ遣られる。これに反し木村氏佐藤氏等はどうであるかあまり申すまい。要は平常が大切なのである、加ひて比佐氏の想像以上の得點は野崎氏一派が反動的行動に出でたため比佐氏に翕然同情がより以上集つたのである。比佐氏を最高たらしめたるは若松萩原兩氏に在らず野崎氏であらふ。比佐氏當選祝賀會には野崎氏を一番上座に置かねばなるまいテ。もう一つ最優の因は何と申しても運動金運動員辯士等の豐富であつた事である、否な眞劍であつた事であらふと思ふ。各地新聞の通信は公平の報導をして居つたが在平夕刊四紙は全部政友側の記事であり、比佐側の新聞は旬刊の湯本の箱崎氏の有する自治新報、市島君の磊總の如き全紙面を上げてその部數は知らぬが最寄り町村に小學兒童に迄で配つた樣子で、此の意味から申して比佐側「比佐氏に在らず」は資金豐富應援者多かつたと申して然るべきである。某方面に〇〇云々の噂さとり〳〵なるが最高などと得點が多いとそんなウワサを立てたがるものである。まあ彼が驕らず慢せず地方のため國家のため正道を歩み向上奮勵怠らずば彼の健康の許す限り政治的生命は地方人は決して見捨てはせぬであらふ。氏たるもの須らく立候補挨拶狀聲明の如く僞りなく直前せん事を切望するものである

× ×

一方地方無產黨中より立候補者なかつたためであらふが、彼等の聲明の如く棄權するものと世人は信じて居つたが結果を觀るに殊に無產黨員の多き炭礦地帶の各村に棄權が比較的尠なかつた事は、數字統計が嚴かに物言ふて居る。吾人は此處に怪げサを感ぜざるを得ぬのである。

× ×

戸別訪問なくなり、引いてチラシ演說會は別としてポスター無くなり立看板も制限されて大分煩雜は免れて來たのは結構であつたが今度は立看板も無くして欲しいもので、立候補文章と演說政見發表てふ言論戰にのみしたいものである。立看板やポスターの如きオモチャ式御祭り的の宣傳を見ずとも公平な新聞通信機關と立候補挨拶狀で足らずば政見發表を聽けば事足りるワケではあるまいか。

× ×

叛した野崎氏が比佐氏を幸にして最勝たらしめたが地方黨人はまだ〳〵團體的行動に洗練されて居らぬ、如何なる團體でも多少の不平はあるものであるその不平をこらえてこそ團體黨人と申し得るのである。普選となつた今日事大主義は容れられない。殊に若人に有權者が多くなつた今日壓迫や干涉投書や告訴を以つて人を陷れたとて決して有利なものでない。反つてその反動的義憤が漲ざるものである。物事は戰ひは正々堂々たらねばならぬ、私利私欲や權力の勢は一時盛んなるも永續するものでない。正義大道を歩むものこれ最後の勝利を得る事は自明の事實たるを、繰り返し高唱して己まぬのである。最後に力說せねばならぬ事は多數必ずしも正なり眞なるものでない、少數なりとも邪にして惡にあらず當の民政黨は雪々群衆心理を握り得たに過ぎぬのである。天下は持ち廻り政友會たるもの自省自愛時の至るを待ち眞に正しく明るく更生すべく努力すべきである。如何に地盤强固たりとも正邪是非の判斷の出來ぬ程吾人若人は良心がなくなつては居らぬ犬養木堂先生なればこそ政友會もあの數だけ保ち得たのだ。若し小選擧區ならば政友會絕滅だつたかも知れぬし、地方に於ても木村氏なればこそ當選し得たので、はあるまいか。幸運なるかな木村翁翁が郡議縣議衆議の各逐鹿戰に一回も落戰の憂目を味つた事なしとは德の致す所か、好々溫厚の紳須らく自重自愛邦家のため地方のため積健を禱つて己まぬものである。

木村氏歐米視察談概要
（三）

ローマ（承前）

彫刻壁畫のない所なく二千年前に出來たといふ皆裸體多く、ローマ法王の住んだ所にも春畫多く日本の大使館「皇族の居られた所だといふ」カトリック「ローマ法王の御寺」の立派な事は言語に絕する樣である。地方土地は一般にヤセて居る即ち火山多く火山灰のためであらふ、然し北部では米が穫れる相である。

ムツソリニー 氏は農業奬勵に熱心である。氏が四年前自分の耕す姿を寫したものを配布して居つた氏は當時農產物の品評會をやつて居つたので會見が出來得なかつた。

ゼネーバーの湖水。良い……實際、聞たりハガキで見た以上良い所であるその湖邊を三時間半程通つた。人口十六萬、建築が立派ロダンより良い街である土地が肥いてブドーの名產地山に樹もありアルプス山も遙かに見える四十キロ進むと

サンゼタル ゼネバー湖水が見える、いづれも富有の土地の樣であつた。そして自動車がせいたくに出來て居る。

アルプス 首府のベルム、エンタラゲン、バクチが公然やつて居る……一行も五拾錢出して見物した主に婦人が大分を占めて居る百圓札を持つてやつて居る威勢である「バクチの方法の說明あつたが略記す」兎に角金のあつめる方法がウマイものである。

ベルギー「獨逸」人口四百萬この街は建築物に高低がない。新しではないいがそうである、秩序整然地下電車多く地下鐵道の發達自動車か多い。自動車で步けない位である從步で步けば樂な位である大なる公園、即ち森林公園が街中にあるのである。愈々目的の會議の場所であるが、會議場は國會議事堂である。議案は大體二個の議案である。議案と申しても協議機關で全世界の輿論を質すといふ理である。

一、都會集中 農村離村が大なる問題結論は各國に持ち歸つて國際聯盟式に研究するといふに在るのである

一、產業の合理化等も主題である。

會議がすんでからカイゼルの離宮

タツタムーの離宮に案內されて當時凱旋門があり道路、行通が整然たるものそれからデンマークの

コペーンハーゲン 途中農業も汽車のなかから見た位であるが向ふには田即ち水田がないのである。

デンマーク
人口三十五萬
コペンハーゲン　七十五萬
ヘンヂング　二十萬

畑が廣くカラス麥の製作である。カラス麥は動物の食料かクロバンを造るといふ牧畜が盛んであつて豚が何千頭といふを一ケ所で飼つておくのであるから驚かざるを得ぬ。組合組織が發達して居る生產販賣利用組合では模範國と稱されて居るのであるが今では獨逸英國が發達してデンマークもしのがれて居るといふ。ハンガリーの

ブタベスト セツキセローバーキーブラーグ總べて農業耕地廣く向ふを見渡して山丘なく雲に續くといふ程でハテが見えない。ハンガリー

ダニーブ川 川がきれいである獨逸のラインよりキレイであつた。町の中を流れて居る宮城の

ブタベストの一室は銀一頓を費したといふ、オーストリの王城は一室七千萬圓といふからこれ又驚かざるを得ぬ。かくの如くで共和政治の起るのも無理もない事であると思つた。公園が運動場になつて機械が完備して居つて盛んに小供等が遊んで居るオランダの

アルステダム 水が多く風車が多い。これ水を汲む車である。オランダ許りでなく、獨逸にもこの風車が多い。この金をかけて居る事一車何千圓といふ相である。

ベラベスト オーターローの戰跡もみた。

パリー「佛國」一般にヨーロッパの舊都會は道路が狹い自動車通行になやむ、十字形に出來て居らず方斜道路を廢する事に苦心して居るといふ。二百間の道路もあるが中道路は五六間で行通に難儀の樣である。此處に面白不可思議なのは御寺に妻に惡事をさせぬ機械がある「以下略記」此の地方は何處へ行つても

ナポレオンの話しでもちきりである、何でも彼んでもナポレオンである。

エヘル塔 世界一の塔にエレベーターで登つた途中で乘換いがある。此塔から市中の風光を眺め得るので言語に絕した壯觀である次はロンドン

話題

總選といふ受難が去つて入學難といふ若人達の受難が到來して居る。

× ×

梅は散つて桃が咲きそのうち櫻が開くであらふ。

× ×

冬眠期も終つたと見え蛙が鳴き出し蛇がノロ〳〵出て來た。

× ×

太陽の光りをうくる事短かつたがそろ〳〵永くなつて來る。

× ×

天地自然を相手とする農民も冬眠より目覺めて田畑に頭を下げねばなるまい、即ち地球の表面を耕してその自然のうちに自然の偉力を體驗し體得するが農民の道場であらねばならぬ。

× ×

比佐昌平氏も愈々今回の總選から『先生』となつた箔がついたのであらふ

[illegible]

林學士正七位若松貞二13
任南洋廳產業試驗場技師兼南洋廳技師、敍高等官六等「昭和五年二月四日付」因みに若松貞二氏は湯本町出身にして先に同廳に任用後北海道帝大林學教室に研究中であつた。

入山採炭（會社）湯本坑業所詰
若松修一12
商工大臣より計理士たるの資格を登錄さる「五年二月十二日付」

小泉恭平16
因に氏は早大商科卒である磐崎村の氏は今回同村在軍分團長に選ばれ就任したと

知人消息

武田精一氏 氏は今回又東部電平營業所長に命ぜられ着任した、尙ほ前任の永倉精次郎氏は東京本社詰めとなれる由。

諸根樟一氏 上京した氏の寓は左の如く番地替をした。
東京牛込區早稻田鶴卷町二二三

中西林藏氏 磐城共濟病院內科部長醫學博士の氏は今回樺太豐原豐生病院長に就任する事となり近く赴任する由である。

荒川精一氏 氏は今回左の所へ轉居した。
東京市麻布區富士見町三

磐中卒業式 明後七日午前拾時より磐中第三十回卒業證書授與式を擧行せらる。

音信交換
盤生

□第一信　二十三日午後九時伊勢山田着、一行四百名と今日から六日間の旅を續けます。留守中よろしく願ひます。

□第二信　高野山に着いたのは二十五日午前十一時半、海拔三千尺を妻は駕籠、私は徒步、電化萬能の今日、カゴ行脚は時代逆行ではあるが高野山だけは奥幽かしい感じがしました、あすは奈良へさい走ります。

□第三信　比叡山から近江の琵琶湖を眺めてゐます、二千四百尺の高山をケーブルカーで登つたのです、雄大です、壯快です。

待たるゝ　平三
（亀）の春衣

植田町本町
森合齒科醫院
森合芳男

内科 小兒科 皮膚科
[illegible]名醫院
平町紺屋町
電話五〇七番

内科・外科・診療一般
片岡醫院
湯本町驛前通

平町田町
高久病院
電話五一三番

磐城セメント特約販賣店
石綿セメント製
朝日煙突
耐水。耐火。美麗。廉價
サビナイ。ヤケナイ。クサラナイ
和洋銅鐵金物
（久）釜屋商店
平町五丁目
電話九番 二三九番
振替貯金口座東京一〇九五六番
良品廉賣に勝る商略なし確實敏捷は（久）の生命なり

磐城セメント代理店
西村屋藥舖
平二丁目
長電話參番

膽寫版附屬品一式
スミス式・キング式
清光堂
清水屋書店
平町二丁目
電話百卅一番

平町田町大通り
ライト寫眞館
高田二果
電話八四七番

日本石油株式會社特約店
油問屋
清關內油店
平町二丁目
關內正一
電話長十六番
支店 郡山市驛前 電話三二八番
支店油槽所 茨城縣多賀郡關本驛前 電話（平潟）三七番